

## 鶴瓶師匠と我が父



### 入来院 久子

今から7年前の秋。前年に母を突然の事故で亡くし独居老人となつて寂しく過こしていた父の元にカメラクルーが押しかけた。NHK「家族に乾杯」のロケだった。

薩摩川内市に元日本バレーボール代表のメダリストである竹下佳江さんと番組ロケをしていた鶴瓶師匠が単独となつた際に、真っ先に訪れたのが入来町の麓地区だったのだ。

最近「日本遺産」に認定された麓の武家屋敷群なのだが、当時の鶴瓶師匠が観光マップを見て麓を訪れたのかは定かではないが、とにかく近所の武家屋敷の石垣を見て回つて出

会つたお婆さんに鶴瓶師匠が我が家を案内されての突然の訪問だった。

「家族に乾杯」はマジで突然にやってくる。「ごめんください！」とやってきた鶴瓶師匠にまるでバカボンのパパのようなデカパンツ姿で現れた父は鶴瓶師匠より、後ろにいたカメラクルーに驚いた。「お？珍しいね！何事ですか？」と尋ねる父に「家族に乾杯という番組で来ました。」と説明する鶴瓶師匠。

「家族に乾杯」は、僕は。去年妻に死なれたもんだから、毎日泣いてますよ。」父のこの返事で始まった入来院家ロケ。鶴瓶師匠は内心『しまった！』と思つたに違いない。だつてこの番組は日本各地のほのぼのとした家族風景を紹介して茶の間に笑いを届ける大人気の番組だもの。毎日泣いて暮らしている独居老人なんてとても笑えない。

それでも「仏壇にお参りさせてください。」

と優しく仏間に上がり込んだ鶴瓶師匠はすぐに笑うことになる。師匠が仏壇に座ると奥でゴソゴソ動く父。「入来院さん、お茶なんか要りませんよ。」と言った鶴瓶師匠に父が「もちろん出しません！」と返したからだ。父がゴソゴソしていたのは自己紹介で名刺を渡そうと名刺入れを探していたのだった。父は実は「家族に乾杯」を観たことが無かったし、鶴瓶師匠をTVCMでしか拝見したことがなかったから『見たことある顔』くらいだったわけだ。

そもそも番組や師匠をよく知っていたとしても、父のことだからマイペースに同じ態度で名刺を差し出していたかもしれないが。

仏間で父と会話を始めた鶴瓶師匠。床の間や欄間を褒めても「くだらない。勝手に大工が選んだだけだ。目立つのは下品！」と持論を展開する父の語り口にお笑いのプロが大笑

いすることとなる。結局、お茶も出さなはずが数時間も話し込んだのちに、父は鶴瓶師匠にご機嫌で焼酎を振る舞うことになった。とにかく、母がいなくなつて寂しくなる夕方に、母の話聞いてくれる鶴瓶師匠が嬉しかったのだらう。そして飄々と思うことを口にする父を鶴瓶師匠は気に入ってしまったようだ。鶴瓶師匠も大学生の頃に奥様と出会って結婚している愛妻家だ。父が亡くした妻を恋しいという想いに酔っぱらっていたのもあるだろうが大泣きしてしまった師匠だった。

それほど恋しいと想う素敵な奥様に会つてみたかった・・・と口にした鶴瓶師匠はその翌年、母の三回忌に奥様とお弟子さんを連れてプライベートで我が家をまた訪ねてくださった。わざわざ母のために座敷で落語を披露してくださったのだ。放送されなかったが、番組ロケ中の酒の席で「この座敷で奥様の三



鶴瓶師匠と父（2013年5月3日、母の三回忌法要にて）



鶴瓶師匠ご夫妻と入院院家家族写真（2013年5月3日、母の三回忌法要にて）

回忌に落語をさせてください。」と言ってくださった鶴瓶師匠。それを父から聞いた私は、「あれだけ忙しい方だし、酔っぱらって言ったことだろうから、本気にしちゃダメだよ！」と父に言っていたのだが、鶴瓶師匠は誠実な有言実行の人だったのだ。

かくして母の三回忌は午前中の法要、お斎の後、東京から駆け付けた鶴瓶師匠のサプライズの落語会となった。

鶴瓶師匠が我が家にかかるなり私服から着物に着替える間、父が法事に集まってくくださった方々に落語会となった経緯を話し、着替え終わった師匠がそれに加わると、まるで即席漫才となった。

師匠の奥様は「素人とは思えない！」と父の喋りを感じし、前座を任された師匠のお弟子さんは「出にくい！」と冷や汗をかいていた。

それでもお弟子さんの落語は『動物園』で子供たちにも分かりやすい楽しいものでしっかり笑いを取っていたし、一方、師匠の落語は『錦木検校』というお殿様と按摩師の最後は泣ける人情話だった。

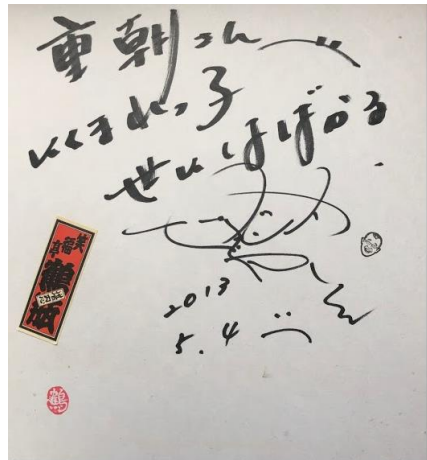
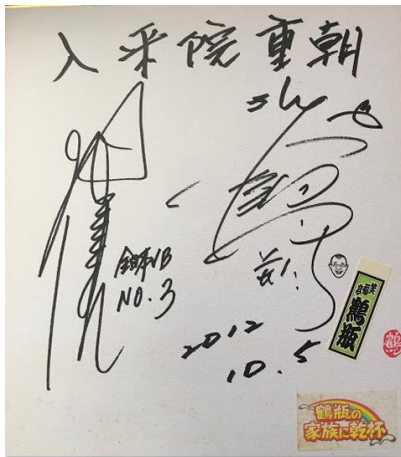
私はとても感動してしまい、有頂天でその後師匠や奥様と会食させていただいたのだが、その時師匠が私に「あなたがご兄弟の中で一番お父様に似てはりまん。」と言われて、驚いた記憶がある。

それでも実は父には似ず、凶々しい私は「東京にお越しの際は連絡してください。」というその時の社交辞令を真に受けて、先日鶴瓶師匠に「今年は父が米寿なので、8月に上京して親類家族が集まって品川プリンスホテルでお祝いします！」と電話をしてみました。すると「その頃は番組のハワイロケかもしれません。それでも変更になったらお伺いします

ので、お祝い会場をショートメールに書いておいてください。」と言ってくれました。なんと優しい鶴瓶師匠。

まあ、突然のハワイロケ中止で顔を見せてくたされれば嬉しいが、そうでなくても久しぶりに電話で父と会話してくださったのがありがたく嬉しかった。

7年前の「家族に乾杯」の収録時にお電話で出演してくださり母のことを「素晴らしいおなごでした。入来院どんには過ぎた嫁御でありましたよ。」と褒めてくださった十四代沈壽官さんが先月92歳でお亡くなりになった。十四代沈壽官さんも奥様に先立たれて、素晴らしいお仕事をされながらも切ない時間を過ごされていたのだらうと想像するのだが、我が父より先に天国で奥様にお会いできた。ここで最後に十四代沈壽官さんの冥福を心からお祈りいたします。



NHK「家族に乾杯」ロケ（2012年10月5日）で頂いた鶴瓶師匠の色紙（左）と母の三回忌法要（2013年5月3日）で頂いた鶴瓶師匠の色紙（右）

## 追記

八月二十四日に東京の品川プリンスホテルでの父の米寿祝いを無事に終えることが出来、当日は総勢38名の出席者で賑わいました。

ホテルの上層階のレストランの大きな個室で執り行ったのですが、個室のドアを開けた途端に豪華絢爛のスタンド花が飾られていて出席者一同驚きました。それは鶴瓶師匠から父に届いたお祝いでしたので尚の事驚いた次第です。

しかもお花だけでなく、鶴瓶師匠は父の米寿のお祝いメッセージをNHKのディレクターさんを通してDVDにして送ってくださいだったので。レストランでプレーヤーとTVをお借りしてお祝い膳をいただきながら視聴したのですが「家族に乾杯」の収録後に撮影し

たであろう小野アナウンサーとの掛け合いメッセージは会場を笑いの渦にした楽しい内容でした。

父が大感激したのは言うまでもありません。

参加者も鶴瓶師匠の優しさに心打たれていました。スタンド花とお祝いメッセージでとても華やかな「米寿祝いの会」となり、「さすが久子！」と叔母たちにも褒めていただき、父も本当に喜んでくれたので、図々しく私が鶴瓶師匠に今回の米寿祝いでの上京をお知らせしてよかったです。

当日の写真の父や参加者の笑顔を眺めてみると、改めて快く父の米寿をお祝いしてくださった鶴瓶師匠とNHKの「家族に乾杯」の番組プロデューサーの井上様に感謝の気持ちでいっぱいになります。

番組ロケのためご出席して頂けなかった鶴瓶師匠から贈られた米寿祝いのスタンド花。祝 米寿入院重朝様へ 「家族に乾杯」笑福亭鶴瓶よりとあります。



生花の前で、父・重朝





父・朝重の米寿祝い集合写真。総勢38名、賑やかでした。



こちらは、孫と曾孫だけで撮った写真。